

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年6月9日

No.23

## 第4回夏季手当交渉報告！

中央本部は、本日10時から「第4回夏季手当交渉」を行い、会社は他社の動向を明らかにした上で、以下のような現時点での考え方を明らかにしました。

- ①現時点の収入動向は、4～5月まで対計画△25億円、6月に入り8日時点で△1.6億円。このまま年度末まで対計画95%で推移すると年度末で100億円の減収になると予測している。既存荷主へのフォローや新規獲得で収入確保を目指していく。
- ②今後の経営として、今年度黒字をあきらめた訳ではないが、リーマンショック以上の出来事が発生した。また銀行などの世間評価からしても赤字にはできない。収支双方厳しく取り組んでいく。
- ③前回交渉で指摘された経営陣の役員増の理由は、役員を入れ替えた関係で業務の役割分担を考慮したため。
- ④大震災で収入が落ち込み、今後の見通しも不透明。今年度黒字にするため経費削減を進めなければならない状況において、昨年度実績を支給できる状況にない。

会社の現時点の考え方に対して中央本部は次のように厳しく指摘しました。

- ①春闘時の「業績給は期末手当で還元を行う」との確認事項は震災後の3月31日に労使で確認した内容であり労使協議を遵守すべきだ！今後の見通しでなく、昨年度の組合員の成果をどう評価して報いるというのか示せ！
- ②組合員に我慢を強いてまで黒字計上のためにコスト削減するとまで言うにおいて、経営陣はお手盛り人事の役員増では話にならない！
- ③職場の組合員は相当の危機感を持って日々の業務に奮闘している。しかし経営陣の危機感を感じ取ることができない。役員自らの経営姿勢を示せ！（役員報酬や退職金返納）
- ④先の見通しが不透明というのであれば、など、経営陣が自ら襟を正して、組合員のこれまでの苦労に報いるべく行動で示すこと！
- ⑤真に苦労した者と、そうでない者に対する区別をキチンとするべきである！
- ⑥「昨年度実績を支給できる状況にない」との考え方を撤回すべきだ！

最後に、会社の考え方は手当抑制のための理由ならざる理由であり、22年度の黒字に対する我々への還元も、役員増の明確な理由も無いまま、組合員に我慢だけ強いる会社の考え方は断じて受け入れられない！回答指定日までに、これまでの我々の努力に対しどう報いるのか見える形でキチンと示すことを会社に通告し、第4回交渉を終えました。

組合員のみなさん！会社は自らの責任を棚に上げて組合員にのみ犠牲を強いるのみでなく、収入状況が厳しいと口で言いながら役員を増やすなど、これまでの定昇半年見送りや震災での迂回輸送などの私たちの苦労を足蹴にしようとしています。

「6.10全国統一行動」において職場の実態を突きつけ、私たちのこの間の奮闘を全組合員と確認すると共に、無責任な会社経営陣に対する怒りを結集し、要求の実現を目指そうではありませんか！！中央本部は回答指定日まで労使協議を積み上げ、要求獲得まで最先頭でたたかいます！

回答指定日は6月15日（水）です。